

平成22年度
埋蔵文化財調査年報
— 国庫補助事業対象分 —

2012年3月

太子町教育委員会

平成 22 年度
埋 藏 文 化 財 調 査 年 報

2012 年 3 月

太子町教育委員会



沖代遺跡竪穴住居跡出土「銅鐵」



沖代遺跡竪穴住居跡出土「人面形土製品」

例言

1. 本報告書は、平成 22 年度に実施した埋蔵文化財調査のうち、国庫補助事業として実施した試掘確認調査の概要報告書である。
2. 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課文化財係海野浩幸が担当した。
3. 本報告書の執筆・編集は、社会教育課海野が行った。
4. 遺物実測・トレース等の整理作業は、改発法子・丸山貴子が行った。
5. 調査位置図は、太子町作成 1/25,000「太子町全図」(平成 9 年)を 1/30,000 に縮小して、各遺跡のトレンチ配置図は、太子町作成 1/2,500 の地図を使用した。
6. 本報告書の示寸標高は、T・P を基準とし、方位は座標北を示す。
7. 本報告書で用いた経緯度は、世界測地系を基準とした。
8. 遺物実測図の断面は、弥生土器・土師器は黒塗りで、須恵器は白抜きで、陶磁器はドットで、石器・金属器は斜線でそれぞれ示した。
9. 本報告書に使用した図面・写真は、太子町教育委員会が保管している。



第 1 図 太子町位置図

調査体制

【平成22年度】

事務局	教育長	寺田寛文
	教育次長	西村隆志
	社会教育課長	井上八郎
	同 係長	森田まさ代
	同 係長	岡田ひとみ
	同 主査	田瀬保紀
	同 主事	水口千佳子
文化財担当	社会教育係長	田村三千夫
	同 主査	三村修次
	同 主査	海野浩幸



調査風景（阿曾丁田遺跡・トライヤルウイーク）

目次

例言 調査体制

I 平成 22 年度調査概要	1
平成 22 年度調査概要	
樋ノ上遺跡	3
立岡南遺跡	5
立岡遺跡	6
沖代遺跡	7
阿曾丁田遺跡	12
馬場遺跡	15
鳩構居跡	17
II 報告書抄録	21

写真目次

巻頭写真	上 沖代遺跡堅穴住居址出土「銅鏡」
	下 同 「人面形土製品」

挿図目次

第 1 図 太子町位置図	
第 2 図 平成 22 年度調査位置図	2
樋ノ上遺跡	
第 3 図 トレンチ配置図	3
第 4 図 トレンチ全景 (西より)	3
第 5 図 土層断面・落込み部分	3
第 6 図 土層断面図	4
立岡南遺跡	
第 7 図 トレンチ配置図	5
第 8 図 土層断面図	5
第 9 図 トレンチ全景	5
立岡遺跡	
第 10 図 トレンチ配置図	6
第 11 図 土層断面図	6
第 12 図 トレンチ全景	6
沖代遺跡	
第 13 図 トレンチ配置図	7
第 14 図 遺構平面・土層断面図	8

第15図 出土遺物(1)	9
第16図 出土遺物(2)	10
第17図 遺構検出状況(西より)	11
第18図 竪穴式住居址(東より)	11
第19図 竪穴式住居址土層断面	11
第20図 銅鏃出土状況(西より)	11
第21図 溝(北より)	11
第22図 溝土層断面	11
阿曾丁田遺跡	
第23図 トレンチ配置図	12
第24図 土層断面図	13
第25図 1 トレンチ	14
第26図 2 トレンチ	14
第27図 3 トレンチ	14
第28図 4 トレンチ	14
第29図 5 トレンチ	14
第30図 6 トレンチ	14
第31図 7 トレンチ	14
馬場遺跡	
第32図 トレンチ配置図	15
第33図 土層断面図	16
第34図 1 トレンチ	16
第35図 2 トレンチ	16
第36図 3 トレンチ	16
第37図 4 トレンチ	16
第38図 5 トレンチ	16
鳩樽居跡	
第39図 トレンチ配置図	17
第40図 遺構平面・土層断面図	18
第41図 出土遺物	19
第42図 1 トレンチ	19
第43図 1 トレンチ・溝	19
第44図 2 トレンチ	19

表 目 次

表1 平成22年度埋蔵文化財調査一覧表	1
表2 遺物観察表	20

I 平成 22 年度調査概要

平成 22 年度では、11 件の調査を実施した。その内訳は、民間の開発事業に伴う試掘確認調査が 9 件、公共事業に伴う確認調査が 2 件である。そのうち、7 箇所の民間開発事業に伴う試掘確認調査を国庫補助事業として実施した。

表 1 平成 22 年度埋蔵文化財調査一覧

No.	遺跡名	所在地	事業内容	開発面積 (㎡)	調査面積 (㎡)	調査期間	備考
1	樋ノ上遺跡	馬場字樋ノ上	宅地造成 国庫補助事業	2,350.85	80	平成 22 年 4 月 19 日 ～ 4 月 28 日	本書掲載
2	立岡南遺跡	立岡字山崎	個人住宅建築 国庫補助事業	175.66	6	平成 22 年 5 月 17 日 ～ 5 月 18 日	本書掲載
3	立岡遺跡	立岡字山ノ下	携帯電話不感地ト ネル対策工事 国庫補助事業	97.5	9	平成 22 年 5 月 25 日 ～ 5 月 28 日	本書掲載
4	橋岩城跡	上太田字坂口	放送設備整備 町単独事業	52	13.5	平成 22 年 6 月 6 日 ～ 6 月 9 日	公共事業
5	沖代遺跡	沖代字前田	資材置き場建設 国庫補助事業	225	45	平成 22 年 6 月 14 日 ～ 7 月 28 日	本書掲載
6	阿曾丁田遺跡	阿曾字竹ノ後	トラックヤード建設 国庫補助事業	3,639.76	70	平成 22 年 11 月 8 日 ～ 11 月 15 日	本書掲載
7	馬場遺跡	鶴字八幡分	宅地造成 国庫補助事業	1,637.65	50	平成 22 年 12 月 6 日 ～ 12 月 10 日	本書掲載
8	鶴構居跡	鶴字寺前	個人住宅建築 国庫補助事業	189.91	18	平成 22 年 12 月 14 日 ～ 12 月 20 日	本書掲載
9	斑鳩小学校遺跡 第 6 次調査	鶴字斑鳩寺	体育館改築 町単独事業	1,300	12.7	平成 23 年 1 月 5 日 ～ 1 月 11 日	公共事業
10	田中遺跡	太田字ヨフカ	宅地造成 町単独事業	2,028	32	平成 23 年 2 月 23 日 ～ 2 月 25 日	
11	船遺跡	鶴字小田町	宅地造成 町単独事業	661.66	63.9	平成 23 年 3 月 1 日 ～ 3 月 14 日	



第2図 平成22年度調査位置図 (1/30,000)

樋ノ上遺跡

1. 遺跡の所在地

掛保郡太子町馬場字樋ノ上 276 番 1、316 番 1

2. 調査機関

掛保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 22 年 4 月 19 日～4 月 28 日

5. 調査面積

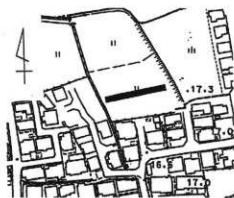
80 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/250)

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 50 分 33 秒)、東経(134 度 34 分 17 秒)



第 3 図 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町馬場字樋ノ上 276 番 1 及び 316 番 1 において宅地造成工事が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財である樋ノ上遺跡の包蔵地内に位置することから、遺構及び遺物包含層の有無の確認を目的に確認調査を実施した。調査地の現況は、標高 15.50m 前後を測る休耕田である。

8. 調査の概要

調査は、2×40mのトレンチ 1 箇所を設定して実施した。調査地の基本土層は、上層から耕土(20～26cm)、灰褐色土・床土(4～6cm)、淡褐色土(20～30cm)、灰黄色土(4～6cm)、淡灰色粘質土(6～10cm)、褐灰色土(4～8cm)で円礫混じりの黄褐色土・地山となっている。遺構は確認されなかったが、トレンチ中央付近で幅約 8m、最深度で 40cm を測る暗灰色粘質土の堆積した落ち込みが確認された。遺物は、落ち込み堆積土からの出土はなかったが、淡褐色土から須恵器の小片が 1 点出土しただけである。

9. まとめ

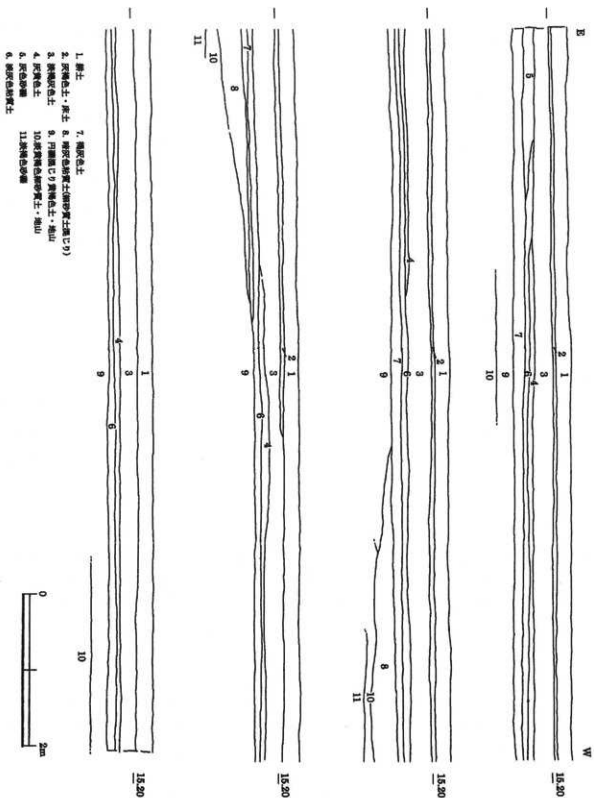
調査の結果、樋ノ上遺跡に関連する遺構は検出されなかった。遺物も須恵器の小片 1 点が出土しただけである。今回の調査地点は、樋ノ上遺跡の立地する微高地の北西縁辺部に位置すると思われる。



第 4 図 トレンチ全景(西より)



第 5 図 土層断面・落ち込み部分



第6図 土層断面図

立岡南遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町立岡字山崎 266 番 2

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 22 年 5 月 17 日～5 月 18 日

5. 調査面積

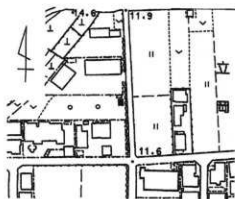
6 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/300)

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 49 分 38 秒)、東経(134 度 34 分 32 秒)



第 7 図 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

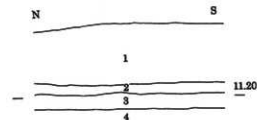
太子町立岡字山崎 266 番 2 において個人住宅の建築が計画され、建築予定地は周知の埋蔵文化財である立岡南遺跡の北に隣接することから、遺構及び遺物包含層の有無の確認を目的に確認調査を実施した。調査地の現況は、標高 11.90m 前後を測る果樹畑で、調査地周辺は平成 7 年度にカドミウム汚染による土壌改良が実施されている。

8. 調査の概要

調査は、2×3mのトレンチを 1 箇所設定して実施した。調査地の基本土層は、上層から盛土(60cm)、旧耕土(10cm)、黄色土・土壌改良土(16cm)で淡黄褐色細砂質土・地山となっている。地山面で山陽新幹線建設工事に伴うと考えられる攪乱を検出したが、遺構及び遺物包含層は確認されず、遺物の出土もなかった。

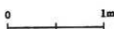
9. まとめ

調査の結果、立岡南遺跡に関連する遺構は検出されなかった。遺物の出土も無いことから、同遺跡の範囲が及んでいないことが確認された。調査地は、カドミウム汚染による土壌改良工事が実施された後、盛土造成が行われ、果樹畑として利用されていることも確認された。



第 8 図 土層断面図

1. 表土・盛土
2. 旧耕土
3. 黄色土・土壌改良土
4. 淡黄褐色細砂質土・地山



第 9 図 トレンチ全景(西より)

立岡遺跡

1. 遺跡の所在地

掛保郡太子町立岡字山ノ下 225 番 4

2. 調査機関

掛保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 22 年 5 月 25 日～5 月 28 日

5. 調査面積

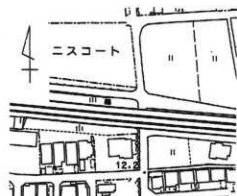
9 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、平面実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/250)

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 49 分 46 秒)、東経(134 度 34 分 36 秒)



第 10 図 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町立岡字山ノ下 225 番 4 において山陽新幹線携帯電話不感地トンネル対策工事が計画され、工事予定地は周知の埋蔵文化財である立岡遺跡の包蔵地内に位置することから、遺構の所在の有無及び遺存状況の確認を目的に確認調査を実施した。調査地の現況は、標高 11.90m 前後を測る山陽新幹線用地内で、昭和 43 年度に兵庫県教育委員会により発掘調査が実施されている箇所である。

8. 調査の概要

調査は、工事掘削が遺構面推定レベルより深く及ぶアンテナ基礎部分に 3×3m のトレンチを設定して実施した。調査地の基本土層は、上層から表土(20cm)、盛土(120cm)で黄褐色細砂質土・地山となっている。地山面で山陽新幹線建設工事に伴うと考えられる攪乱を検出したが、遺構は確認されず遺物の出土もなかった。

9. まとめ

調査の結果、アンテナ基礎部分周辺は昭和 43 年度の発掘調査で、遺構が検出されなかった箇所に位置することが確認された。



第 11 図 土層断面図



第 12 図 トレンチ全景(南より)

沖代遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町沖代字前田 67 番 1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 22 年 6 月 14 日～7 月 28 日

5. 調査面積

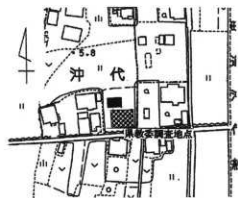
45 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺構実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、トレンチ配置図(1/250)

写真記録(カラーネガ 120mm・6×7 判、カラーリバーサル 35mm、デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 48 分 36 秒)、東経(134 度 34 分 16 秒)



第 13 図 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町沖代字前田 67 番 1 において資材置場の建設工事が計画され、工事定地は周知の埋蔵文化財である沖代遺跡の包蔵地内で、平成 21 年度に兵庫県教育委員会により県道網干停車場新舞子線改良工事に伴い発掘調査が実施された地点のすぐ北側に位置することから、遺構の広がりを確認するため確認調査を実施した。調査地の現況は、標高 6.30m 前後を測る造成地である。

8. 調査の概要

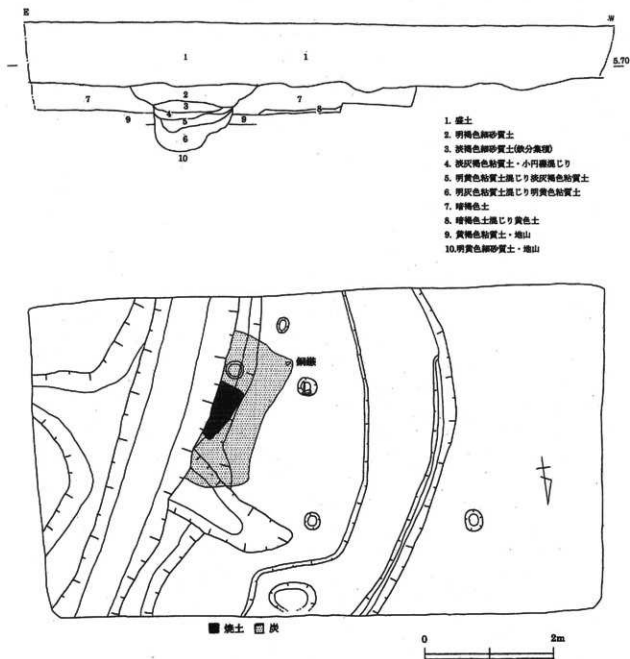
調査は、5×9m のト調査区を設定して実施した。調査地の基本土層は、上層から造成盛土(約 90cm)で黄褐色粘質土・地山となっている。今回の調査地点は、造成時に耕土の漑き取りが行われ、また、近代に耕土面の取り下げも行われており、県教育委員会の調査で確認されている 2 面の遺構面の内、上層の第 1 遺構面が削平されていることが判明した。

調査の結果、県教育委員会により検出された溝の続きと、その溝に切られた竪穴式住居址 1 棟、柱穴 1 基を検出した。溝は東に緩くカーブしており、幅 2.1m、検出面からの深さ 1.3m を測る。断面は、上層は皿形を呈し、検出面から 30cm の深さで幅 1.3m の U 字形を呈する 2 段掘りとなっている。埋土は、上層では淡褐色細砂質土が主となっており、下層では灰色粘質土が主となっている。遺物は、弥生土器・土師器・須恵器が出土した。出土遺物から古墳時代後期に埋没したと考えられ、県教育委員会の調査成果と一致するものである。

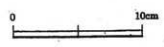
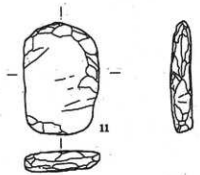
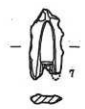
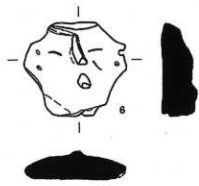
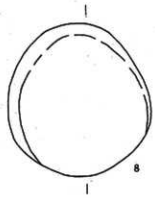
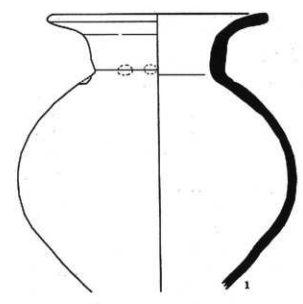
竪穴式住居址は、調査区外に延びており、全容を把握することができなかったが、検出された平面形から推測すると直径約 8m を測る円形の住居址と考えられる。検出面からの深さ 40cm を測り、15cm の高さのベッド状遺構を持つ。ベッド状遺構面で側壁に沿って幅 8～10cm、深さ 3～5cm の周壁溝がめぐる。焼土・炭の堆積した土坑 1 基、柱穴 4 基、ベッド状遺構面で土坑 1 基をそれぞれ検出した。遺物は、弥生土器・石鏃・擦り石・人面形土製品と中央土坑南西の床面から無茎凹基式銅鏃 1 点が出土した。出土遺物から弥生時代後期の住居址と考えられる。

9. まとめ

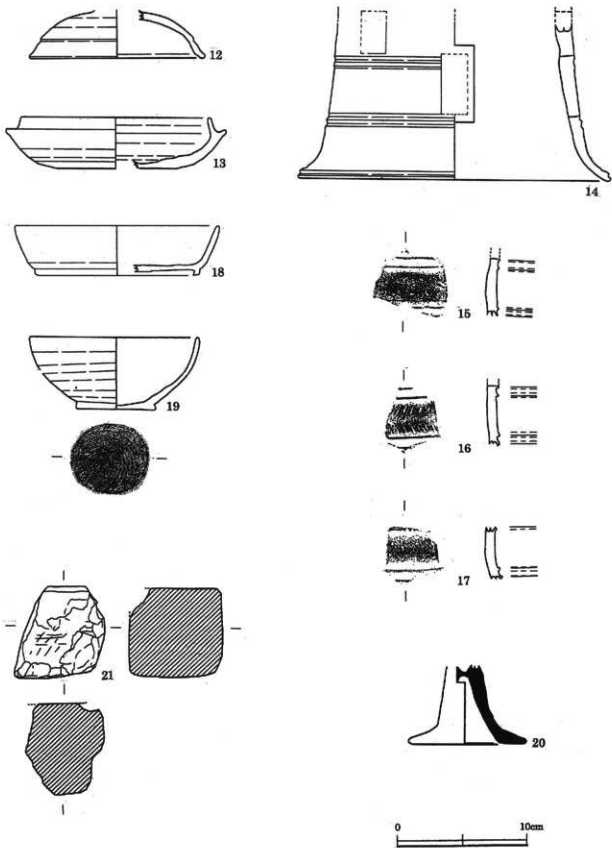
調査の結果、今回の調査地点は近代の耕作に伴う耕土面の取り下げが行われ、遺構面が削平されていることが判明した。検出された遺構は、県教育委員会の調査成果と一致する溝1条、弥生時代後期の竪穴式住居址1棟、時期不明の柱穴1基である。弥生時代後期の住居址を検出したことにより、同時期の集落が存在することが確認された。また、竪穴式住居址から銅鏝と人面形土製品が出土したことが特筆される。県教育委員会による調査で確認された縄紋時代の遺物については、今回の調査では確認されなかった。なお、資材置場建設工事は、造成盛土内で収まる工事のため、竪穴式住居址については土嚢袋で床面及び側壁面を養生する保存処置を施し、埋め戻しを行った。



第14図 遺構平面・土層断面図



1~10. 住居址、11. 住居址内土坑
第15図 出土遺物(1)



12~19. 溝上層、20. 溝下層、21. 遺構面

第 16 圖 出土遺物 (2)



第 17 図 遺構検出状況（西より）



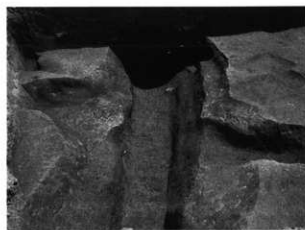
第 18 図 竪穴住居址（東より）



第 19 図 竪穴住居址土層断面



第 20 図 銅鐵出土状況（北より）



第 21 図 溝（北より）



第 22 図 溝土層断面

阿曾丁田遺跡

1. 遺跡の所在地

掛保郡太子町阿曾字竹ノ後 651 番 1 他 6 筆

2. 調査機関

掛保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 22 年 11 月 8 日～11 月 15 日

5. 調査面積

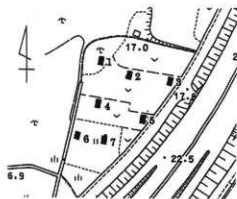
70 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/500)

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 50 分 22 秒)、東経(134 度 33 分 51 秒)



第 23 図 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

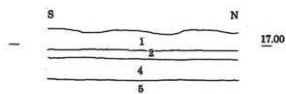
太子町阿曾字竹ノ後 651 番 1 他 6 筆においてトラックヤード建設工事が計画され、建設予定地は周知の埋蔵文化財である阿曾丁田遺跡の包蔵地の南西部に位置することから、遺構及び遺物包含層の有無の確認を目的に確認調査を実施した。調査地の現況は、標高 17.20m 前後を測る休耕田である。なお、調査には平成 22 年度トライやる・ウィークとして太子町立東中学校 2 年生 4 名と同西中学校 2 年生 3 名が参加した。

8. 調査の概要

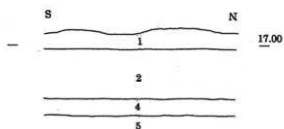
調査は、2×5m のトレンチを 7 箇所設定して実施した。調査地の基本土層は、1～3・5 トレンチでは、上層から耕土(20～24cm)、淡黄褐色土(10～60cm)で明褐色円礫混じり砂質土・地山となっているが、1・2 トレンチでは明褐色円礫混じり砂質土の下層で明褐色砂礫となっている。4・7 トレンチでは、上層から耕土(20cm)、淡黄褐色土(16～20cm)で明褐色砂質土・地山となっており、さらに 20～40cm で明褐色円礫混じり砂質土となっている。6 トレンチでは、耕土(16cm)直下明褐色砂質土・地山となっており、さらに 20cm で明褐色円礫混じり砂質土となっている。土層堆積状況の観察から、地山面は北東方向へ傾斜していることが確認された。各トレンチとも遺構は確認されなかったが、遺物は、5 トレンチから須恵器片 1 点が出土しただけである。

9. まとめ

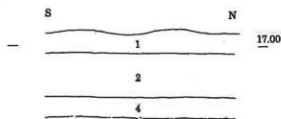
調査の結果、阿曾丁田遺跡に関連する遺構は検出されなかった。遺物も流れ込みと考えられる須恵器片 1 点が出土しただけで、今回の調査地点までは同遺跡の範囲は及んでいないことが確認された。



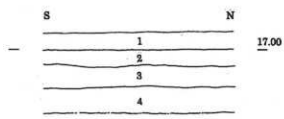
1トレンチ



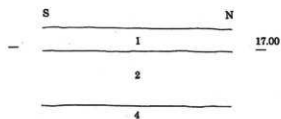
2トレンチ



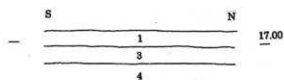
3トレンチ



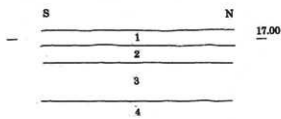
4トレンチ



5トレンチ

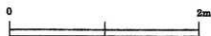


6トレンチ



7トレンチ

- 1. 粘土
- 2. 灰黄褐色土
- 3. 明褐色砂質土・地山
- 4. 明褐色円礫混じり砂質土・地山
- 5. 明褐色砂礫



第 24 図 土層断面図



第25図 1トレンチ



第26図 2トレンチ



第27図 3トレンチ



第28図 4トレンチ



第29図 5トレンチ



第30図 6トレンチ



第31図 7トレンチ

馬場遺跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鵜字八幡分 925 番 4 他 2 筆

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 22 年 12 月 6 日～12 月 10 日

5. 調査面積

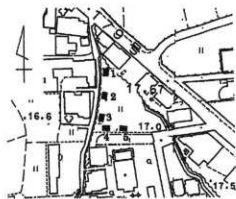
50 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、トレンチ配置図(1/250)

写真記録(デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 50 分 30 秒)、東経(134 度 34 分 24 秒)



第 32 図 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

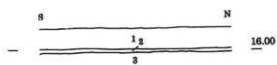
太子町鵜字八幡分 925 番 4 他 2 筆において宅地造成工事が計画され、造成予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地外であるが稗田神社の裏に位置し、周知の埋蔵文化財である馬場遺跡の北側に隣接することから、遺構及び遺物包含層の有無の確認を目的に確認調査を実施した。調査地の現況は、標高 16.20m 前後を測る水田である。

8. 調査の概要

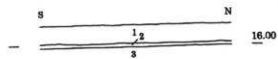
調査は、2×5m のトレンチ 5 箇所を設定して実施した。調査地の基本土層は、上層から耕土(20～22cm)、淡褐灰色土・床土(4～6cm)、淡褐灰色土(20～30cm)、灰黄色土(4～6cm)、淡灰色粘質土(6～10cm)、褐灰色土(4～8cm)で小円礫混じり明褐色土砂質土・地山ないしは褐色砂礫・地山となっている。各トレンチとも遺構・遺物包含層は確認されなかった。遺物は、2 トレンチで弥生土器片 1 点と 4 トレンチで須恵器片 1 点が出土しただけである。

9. まとめ

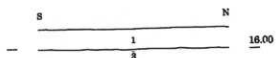
調査の結果、馬場遺跡に関連する遺構は検出されなかった。遺物も流れ込みと考えられる磨耗した弥生土器片と須恵器片がそれぞれ 1 点ずつ出土しただけで、同遺跡の範囲は及んでいないことが確認された。



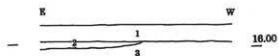
1トレンチ



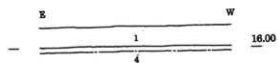
2トレンチ



3トレンチ



4トレンチ



5トレンチ

- 1. 粘土
- 2. 炭褐色土・灰土
- 3. 小円礫混じり明褐色砂質土・地山
- 4. 褐色砂礫



第33図 土層断面図



第34図 1トレンチ



第35図 2トレンチ



第36図 3トレンチ



第37図 4トレンチ



第38図 5トレンチ

鳩構居跡

1. 遺跡の所在地

揖保郡太子町鳩字寺前 575 番 1

2. 調査機関

揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課 海野浩幸

4. 調査期間

平成 22 年 12 月 14 日～12 月 20 日

5. 調査面積

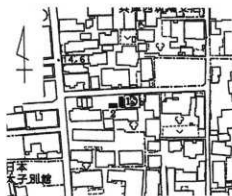
18 m²

6. 記録作成

土層実測図(1/20)、遺構実測図(1/20)、遺物実測図(1/1)、

トレンチ配置図(1/100)、写真記録(カラーリバーサル 35mm、デジタルカメラ撮影)

北緯(34 度 50 分 7 秒)、東経(134 度 34 分 38 秒)



第 39 図 トレンチ配置図(1/2,500)

7. 調査に至る経過

太子町鳩字寺前 575 番 1 において個人住宅建築工事が計画され、建築予定地は周知の埋蔵文化財である鳩構居跡の包蔵地内に位置することから、遺構及び遺物包含層の有無の確認を目的に確認調査を実施した。また、近世の鳩宿の本陣が江戸時代末に南方約 200mの西国街道沿いに移るまで、調査地付近に所在した。調査地の現況は、標高 15m 前後を測る更地である。

8. 調査の概要

調査は、1.5×6m(1 トレンチ)と 1.5×5m(2 トレンチ)のトレンチ 2 箇所を設定して実施した。調査地の基本土層は、上層から現代盛土(30～40cm)、黒褐色土・旧表土(4～20cm)、暗灰褐色土・整地層(20～70cm)、黄灰色土(10cm)、瓦・礫混じり暗褐色土(10～20cm)、で明褐色土・地山となっている。

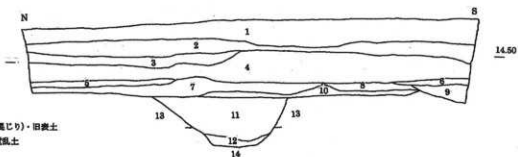
暗灰褐色土層の下が江戸時代の遺構面と考えられるが、遺構を検出できたのは地山面に達してからであった。遺構は 1 トレンチでは、トレンチ中央部で溝 1 条、南端部で土坑 1 基、中央部と北端部でピットを検出した。溝は、東西方向に延びるものと考えられ、幅 1.8m、検出面からの深さ 70cm を測り、断面は逆台形を呈する。2 トレンチでは、トレンチ南半で埋土中に川原石・凝灰岩角礫を包含した落ち込み状遺構を検出した。位置関係から 1 トレンチ南端部で検出した土坑と一連のものと考えられる。

遺物は、1 トレンチの整地層・溝・土坑、2 トレンチの落ち込み状遺構から瓦・近世陶磁器がそれぞれ出土した。

9. まとめ

調査の結果、江戸時代の溝、土坑、落ち込み状遺構、時期不明のピットを検出した。

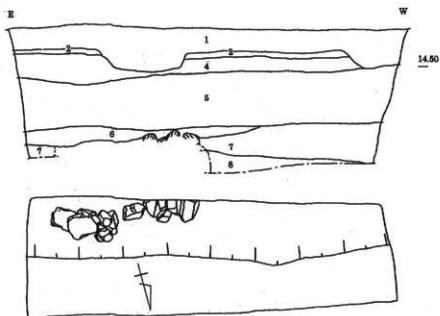
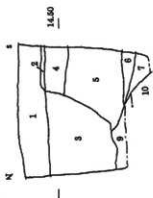
中世鳩構居跡に関連する遺構は確認されなかったが、検出した遺構は、江戸時代末に西国街道沿いに移転する前の鳩本陣に関連するものと考えられる。



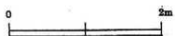
1. 表土(真砂土・砕石)
2. 黒褐色土(レンガ・モルタル張り)・旧農土
3. 黄灰色土張り・暗灰色土・覆瓦土
4. 暗灰色土・整地層
5. 黄灰色土
6. 暗茶褐色土
7. 暗灰色土(瓦・織瓦張り)
8. 暗黄灰色土
9. 灰褐色土
10. 灰色土
11. 茶褐色土張り・灰色土
12. 灰色土(やや粘質)
13. 明褐色土・地山
14. 黄褐色土・地山

1 トレンチ

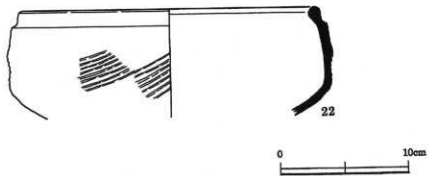
1. 表土(真砂土・砕石)
2. 黒褐色土・旧農土
3. 覆瓦土
4. 暗灰色土・整地層
5. 暗灰色土(瓦・陶器・織瓦張り)
6. 灰色砂質土
7. 茶褐色土張り・灰色砂質土
8. 灰色粘質土
9. 明褐色土・地山
10. 黄褐色土・地山



2 トレンチ



第40図 遺構平面・土層断面図



第41図 出土遺物



第42図 1 トレンチ全景 (北より)



第43図 1 トレンチ溝 (西より)



第44図 2 トレンチ全景 (西より)

表2 遺物解説表

番号	遺跡名	出土地点	種別 器種	遺物番号	法 量(cm)			状 成	色 調	胎 土	備 註
					口径	器 高	底 径				
1	沖代遺跡	住居址	弥生 壺	1001-1-1	16.4	21.5	21.3 腹径	良好	外 10YR20/3 浅黄橙~7.5YR3/8 黄橙 内 7.5YR20/3 浅黄橙~7.5YR3/8 黄橙	2~6mm大小の 石を多く含む	外 口縁部ナデ、体部磨石のため 不明 内 磨石のため不明
2	#	#	弥生 底部	1001-1-2		5.9	4.7	良好	外 7.5YR2/4 浅黄橙 内 7.5YR2/4 浅黄橙	1~3mm大小の小 石少量と微砂 粒含む	外 ナデ、底部磨石低 内 磨石のため不明
3	#	#	弥生 底部	1001-1-3		2.6	2.7	良好	外 7.5YR2/4 浅黄橙 内 7.5YR2/3 浅黄橙	1~2mm大小の小 石少量と微砂 粒含む	外 刷毛目、底部ナデ 内 ナデ
4	#	#	弥生 甕	1001-1-4		4.0	4.4	良好	外 7.5YR7/4 鈍黄 内 7.5YR7/4 鈍黄	2~3mm大小の小 石多く含む	外 叩き、底部ナデ 内 刷り後ナデ
5	#	#	弥生 高坏	1001-1-5		4.45	8.4	良好	外 7.5YR2/4 浅黄橙 内 7.5YR2/4 浅黄橙	1~2mm大小の小 石含む	外 磨き、外から内へ4個の穿孔 内 刷り後ナデ
6	#	#	人形形 土製品	1001-1-6	5.0 腹	5.5 横	1.7 最大厚	良好	外 5YR2/4 鈍黄 内 5YR2/4 鈍黄	細砂多く含む	口・口に穿孔、口は首に貫通
7	#	#	磨石	1001-1-7	3.7 最大長	1.8 最大幅	0.5 最大厚				
8	#	#	磨石	1001-1-8	11.9 最大長	11.0 最大幅	7.1 最大厚				
9	#	#	石鏝	1001-1-9	2.0 最大長	1.6 最大幅	0.4 最大厚			サスカイト	
10	#	#	石鏝	1001-1-10	1.7 最大長	1.7 最大幅	0.6 最大厚			サスカイト	
11	#	# 中央土坑	打製石 斧	1001-1-11	8.7 最大長	5.6 最大幅	1.6 最大厚			サスカイト	
12	#	溝上層	須恵陶 坏蓋	1001-2-1	13.0	3.7		良好	外 N4 灰 内 N5 灰	磨石粒含む	外 回転ナデ 内 天井部ナデ、縁部回転ナデ
13	#	#	須恵陶 坏身	1001-2-2	14.1	4.0	8.3	良好	外 N8 灰白 内 N8 灰白	砂粒少量含む	外 口縁一部回転ナデ、底部磨石 内 ナデ
14	#	#	須恵陶 器台	1001-2-3		12.2	22.0	良好	外 N6 灰 内 N7 灰白	磨石粒少量と微 砂粒含む	外 横ナデ、長方形造かし 内 ナデ
15	#	#	須恵陶 器台	1001-2-5		4.6		良好	外 N8 灰白~N6 灰 内 N6 灰	磨石粒少量含む	外 波状状、長方形造かし 内 回転ナデ
16	#	#	須恵陶 器台	1001-2-6		4.9		良好	外 N5 灰 内 N6 灰	磨石粒少量含む	外 波状状、造かし 内 回転ナデ
17	#	#	須恵陶 器台	1001-2-7		4.1		良好	外 N7 灰白 内 N6 灰	砂粒含む	外 波状状、造かし 内 回転ナデ
18	#	#	須恵陶 水	1001-2-4	14.3	3.9	12.6	良好	外 2.5Y7/1 灰白 内 2.5Y7/1 灰白	砂粒少量と微砂 粒含む	外 回転ナデ、底部磨石 内 磨石、底部ナデ
19	#	#	須恵陶 筒	1001-2-8	12.8	5.8	6.1	不良	外 7.5YR2/4 浅黄橙 内 10YR20/3 浅黄橙	2~8mm大小の小 石少量と微砂 粒多く含む	外 回転ナデ、未切底 内 ナデ
20	#	溝下層	弥生 高坏	1001-3-1		6.1	9.0	良好	外 10YR20/3 浅黄橙~10YR2/4 浅黄橙 内 10YR20/3 浅黄橙	1~2mm大小の小 石少量含む	外 ナデ、底部磨ナデ 内 横割り
21	#	遺構面	磁石	1001-4-1	7.1 最大長	7.0 最大幅	7.2 最大厚				
22	姉崎遺跡	1 トレンチ 溝1	土師質 土塊	1002-1-1	22.4	8.5		良好	外 5YR2/4 鈍黄 内 5YR2/4 鈍黄	磨石粒と微砂 含む	外 横ナデ、叩き 内 磨石後ナデ

報告書抄録

ふりがな	へいせい22ねんど まいぞうぶんかさざいちょうさねんぼう
書名	平成22年 埋蔵文化財調査年報
副書名	一 国庫補助事業対象分 一
巻次	
シリーズ名	太子町文化財資料
シリーズ番号	第78集
編著者名	海野浩幸
編集機関	太子町教育委員会
所在地	〒671-1561 兵庫県揖保郡太子町鵜 1369-1 Tel.079-277-1017
発行年月日	西暦 2012年3月31日

遺跡名	樋ノ上遺跡					
所在地	兵庫県揖保郡太子町馬場字樋ノ上					
コード	北緯東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因		
市町村 遺跡番号	34° 50' 33"	134° 34' 17"	2010・4・19 ～4・28	80	宅地造成	
450010 450006						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
樋ノ上遺跡	集落跡	中世				

遺跡名	立岡南遺跡					
所在地	兵庫県揖保郡太子町立岡字山崎					
コード	北緯東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因		
市町村 遺跡番号	34° 49' 33"	134° 34' 32"	2010・5・17 ～5・18	6	個人住宅建築	
450010 450205						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
立岡南遺跡	散布地	古墳				

遺跡名	立岡遺跡					
所在地	兵庫県揖保郡太子町立岡字山ノ下					
コード	北緯東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因		
市町村 遺跡番号	34° 49' 46"	134° 34' 36"	2010・5・25 ～5・28	9	携帯電話不感地 対策工事	
450010 450204						
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
立岡遺跡	集落跡	縄紋～平安				

遺 跡 名		沖代遺跡				
所 在 地		兵庫県揖保郡太子町沖代字前田				
コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積 (m ²)	調 査 原 因
市町村	遺跡番号	34° 48' 36"	134° 34' 16"	2010・6・14	45	資材置き場建設
450010	450218			～7・28		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項	
沖代遺跡	集落跡	弥生・古墳	竪穴住居・溝	弥生土器・土師器 ・須恵器・銅鐵・石 製品	住居址より無茎 凹基式銅鐵・人面 形土製品が出土	

遺 跡 名		阿曾丁田遺跡				
所 在 地		兵庫県揖保郡太子町阿曾字竹ノ後				
コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積 (m ²)	調 査 原 因
市町村	遺跡番号	34° 50' 22"	134° 33' 51"	2010・11・8	70	トラックヤード 建設
450010	450002			～11・15		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項	
阿曾丁田遺跡	散布地	弥生・古墳				

遺 跡 名		馬場遺跡				
所 在 地		兵庫県揖保郡太子町鵜字八幡分				
コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積 (m ²)	調 査 原 因
市町村	遺跡番号	34° 50' 30"	134° 34' 24"	2010・12・6	50	宅地造成
450010	450007			～12・10		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項	
馬場遺跡	集落跡	弥生・古墳・平安				

遺 跡 名		鵜構居跡				
所 在 地		兵庫県揖保郡太子町鵜字寺前				
コ ー ド		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積 (m ²)	調 査 原 因
市町村	遺跡番号	34° 50' 7"	134° 34' 38"	2010・12・14	18	個人住宅建築
450010	450012			～12・20		
所収遺跡名	種 別	主 な 時 代	主 な 遺 構	主 な 遺 物	特 記 事 項	
鵜構居跡	集落跡	中世・近世	溝・土坑	土師器・近世陶磁器 ・瓦		

平成22年度 埋蔵文化財調査年報

発行日 平成24年 3月31日

発行 太子町教育委員会

兵庫県揖保郡太子町鱒1369-1

電話 079-277-1017

印刷 株式会社協和印刷

